

変形菌病について

地面に近い部分に発生が多く見られます。地面から植物体に、乳白色～黄白色アメーバ状の粘質物「変形体」が這い上がって付着し、やがて灰白色カサブタ状の「子実体」に変化して、その内部に黒粉状の胞子を生じます。変形体、子実体ともに表面に付着しているだけで、植物体内部を侵すことはありませんが、外観を著しく損ね、多量に覆われると生育に影響を及ぼす場合もあります。

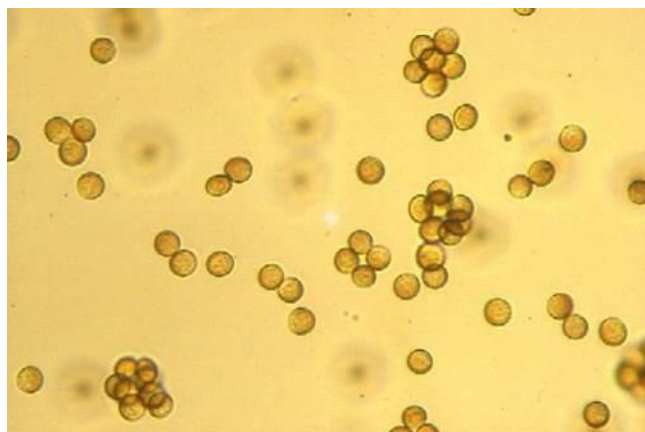
変形体は移動性があるため、発生は多くの場合、一過性です。また変形体、子実体ともに付着しているだけなので、特に防除の必要はありません。

もしも、繰り返し発生するようであれば、増殖に好適な過湿を避けるために圃場の排水対策を行い、餌となる細菌やカビの増殖源となる未熟有機物の施用を避け、圃場周囲に枯草、朽ち木など多量・粗大な有機物を放置しないようにしてください。

以下に、県内での発生事例を示します。

1. ハクサイの被害

地際からやや上に見られる白い層は、弧を描いており、地面から移動してきた様子がわかります（上左図）。変形体の移動には葉脈の隆起部を好む傾向があります（上右図）。白色の層が剥離すると、その下から黒色の粉が現れます（下左図）。黒粉を検鏡すると球形の胞子であることがわかります（下右図）。



2. ダイコンの被害



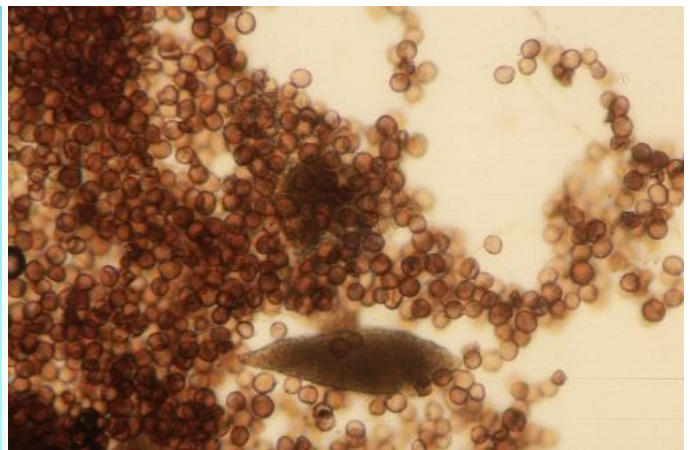
前記ハクサイの隣接圃場のダイコンでの発生です。

変形体は子実体を形成する時期が来ると「上へ登る」だけですので、「そこにある」ものに付着します。木の杭や木造建築の壁であっても構いません。

変形体から子実体へ変化するときは飢餓状態を好みますから餌は無くても良いわけです。

2. ベゴニアの被害

ポリポットのベゴニアに灰色の固形物が密に付着しています（左図）。検鏡すると、同様に球形の胞子が形成されているのが分かります（右図）。



3. コマツナの被害

葉を見ると（左図）黄色い付着物（右手）と灰色～黒色の付着物（左手）が見られます。黒色部分にセロテープを押し当てて採取、観察すると変形菌の胞子であることがわかりました（右図）。黄色い付着物は葉脈隆起上にあり、胞子形成まで至らず乾固した変形体と考えられます。

